

	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
取組概要	○	○	○		○

多面的活動組織との連携とスマート農業による持続可能な地域農業の実現

- 第6期対策から2協定を統合し、一体となった農地を保全
- スマート農業加算を活用し、高齢化に対応した省力化と作業の軽減

集落の課題

高齢化が進行する集落

- 高齢化や担い手が不足する中、農地の維持が懸念される。
- 農地が狭小で急傾斜地が多いため、法面の草刈作業に労力を要する。



【片山地内の取組箇所】

取組内容

地域課題の解決と、スマート農業による持続可能な地域社会の実現

- 多面的活動組織と連携し、水路や農道の保全など集落協定だけでは対応が困難な課題に取り組んでいる。また、多面的機能を増進する活動として、PTAとの協力により地元の小中学生を巻き込み、遊休農地にヒマワリやスイセンを植栽する取組を展開。地域資源の有効活用を図るとともに、景観保全や住民間の交流促進に寄与している。農業者のみならず非農業者も積極的に参加し、地域全体で取り組む姿勢が広がっており、県の農業農村多目的機能活動表彰では令和7年度に愛知県知事賞を受賞した。
- 複数の集落を統合し、事務作業を効率化することで、存続が困難な集落の支援を実現。さらに、収支管理や個人配分の計算を含むシステムを構築し、誰でも容易に事務処理ができる仕組みを整備した。
- スマート農業加算を活用し、ドローンやヘリコプター、リモコン式草刈機、自動給水栓などの最新技術を導入。高齢の農業者でも操作可能となるよう、講習会を随時開催している。協定農地でのスマート農業機器活用割合は100%を達成しており、担い手不足という課題の解消に寄与している。



【地域住民との景観保全】

取組の目標

協定農地でのスマート農業機器活用割合100%の維持

- 地域住民がスマート農業機器を活用し、農地の保全を維持・管理していく。



地域住民と担い手の役割を分担

- 草刈りや水路の清掃などの環境保全活動を地域住民が担い、担い手は水稻耕作に専念することで、全農地の適切な維持管理を実現させる。

水稻の食料自給率100%を目指す

- 担い手が生産した水稻を農地所有者の自家消費用として活用し、地元での食料自給率向上を目指す。余剰分は担い手が販売可能な仕組みを構築していく。

取組地域の概要

○位置



○地域の概要

- 新城市の西南部に位置し、美しい田園風景が広がる自然豊かな地域です。

○主要作物

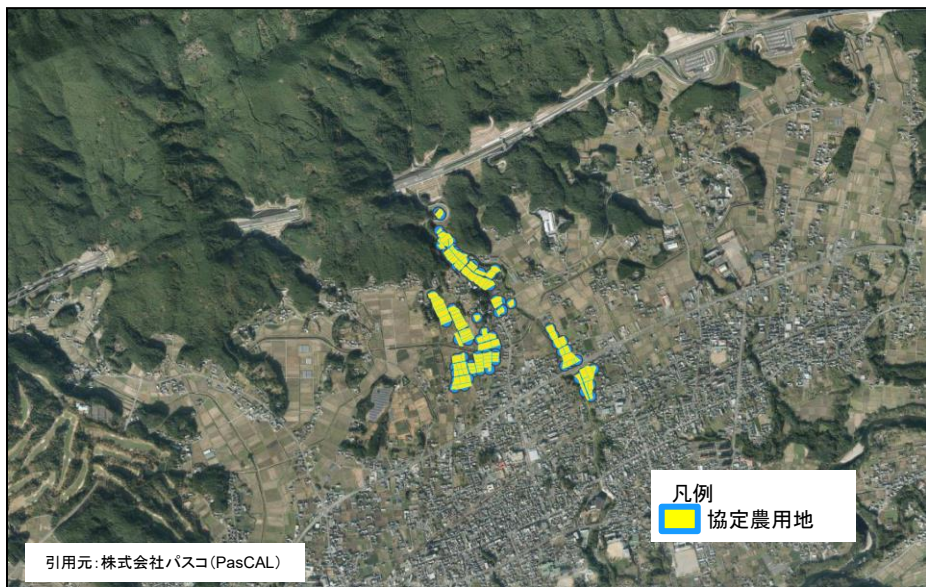
- 水稻

○集落協定の概要(令和7年現在)

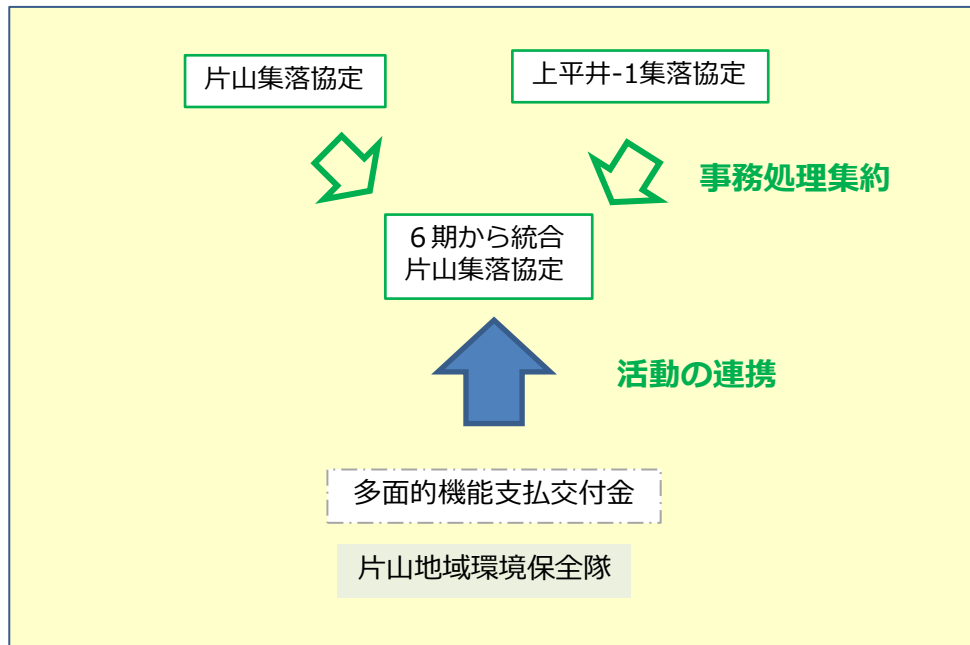
面積：14.37ha(田)
 (急傾斜4.38ha、緩傾斜9.99ha)
 交付金額：244万円
 (うちスマート農業加算：72万円)
 構成員：農業者39人
 連携組織：多面的活動組織
 協定開始：令和7年度

(参考資料)

① 位置図



② 体制図



③ 取組の様子



【リモコン式草刈機による作業】



【多面的機能団体との共同作業】

取組概要	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
	○		○		○

多様な人々の参加で人手不足解消、作業の軽減に取り組む

- 地域内外、農家・非農家を問わない多様な人々の参加(元丈の里 応援隊)で農家の高齢化・人手不足を補う
- スマート農業の推進により、省力化と作業効率化を図り、環境保全型農業に取り組む

集落の課題

当集落協定11の課題と取組

- ・当集落協定は、耕作に不利な地形において、高齢化・人口減による担い手不足が進む中、11の活動目標を挙げ、日々取り組んでいる。



【地区草刈りの様子】

取組内容

元丈の里応援隊の活動内容

地区内外から農家・非農家を問わず「元丈の里応援隊」を組織し農業者の高齢化・人手不足等日々の様々な課題に取り組む。

【ネットワーク化の取組】

- ① 持続可能な豊かな農地を増やす。
レンゲ緑肥・牛糞堆肥で栽培した稲を飼料として育てた牛の牛糞堆肥で、地力を上げ、化学肥料に極力頼らない稲作を行い、土地改良区と共にさらに豊かな土地・豊かな作物をつくるサイクルを維持継続していく。
- ② 生産性向上の取組として、農業6次産業化の高度化に尽力していく。
当地域の農作物を使用し、食品ロス削減も視野に入れた商品の直営店舗を開業し、他所の非農家を含めた「元丈の里応援隊」から1名以上の雇用を目標とする。

【スマート農業の推進による省力化と作業効率化、環境保全型農業への取組】

- ① ドローンを多目的活用した緑肥種(レンゲ)の播種を30aずつ増やし、環境保全型農業の推進を図る。
- ② 獣害捕獲にカメラ(ネットワークカメラ)の使用による捕獲作業の効率化
 - ・大学と連携し、マイクロフォンでオスジカの鳴き声を捉え、生息域や動向調査を行い捕獲作業に役立てる。
 - ・毎年、獣類(シカ、サル、イノシシ等)5頭の捕獲を目指す。

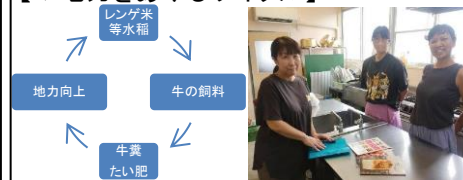
取組の成果又は目標

加算措置2つの成果

【ネットワーク化加算】

- ① 持続可能な豊かな農地を増やす。
目標：16ha(5年後)
現状：3ha(令和7年10月)
- ② 農業6次産業化の高度化
目標：1名以上の雇用
現状：2名雇用(令和7年10月)

【▼地力をあげるサイクル】



【直営店舗「ゆめこや」の新規スタッフ▲】

【スマート農業加算】

- ① ドローンによるレンゲの播種
目標：30aずつ播種を増やす。
現状：30a播種(令和7年10月)
- ② ネットワークカメラ使用による捕獲の効率化を図る。
目標：獣類5頭以上の捕獲
現状：27頭
(令和7年1月~12月)

取組地域の概要

○位置



多気町

○地域の概要

- ・三重県の中央部に位置する多気町の西部にある中山間地域

○主要作物

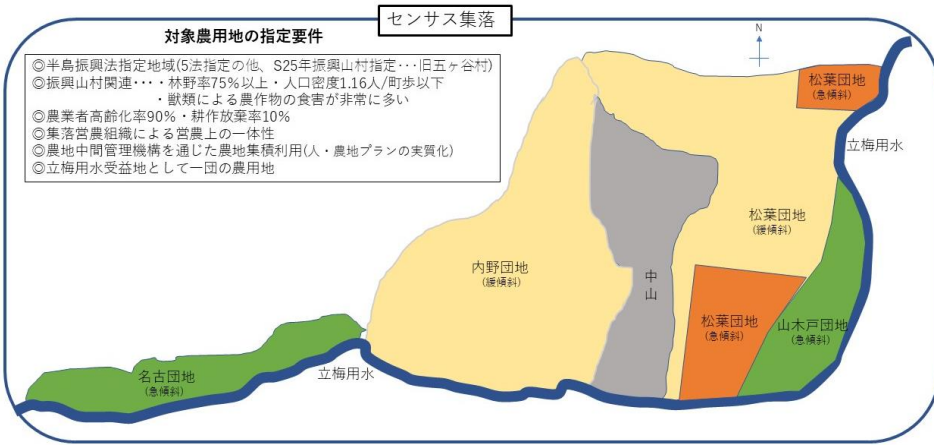
- ・水稻、麦、大豆、さつまいも、薬草

○集落協定の概要(令和7年現在)

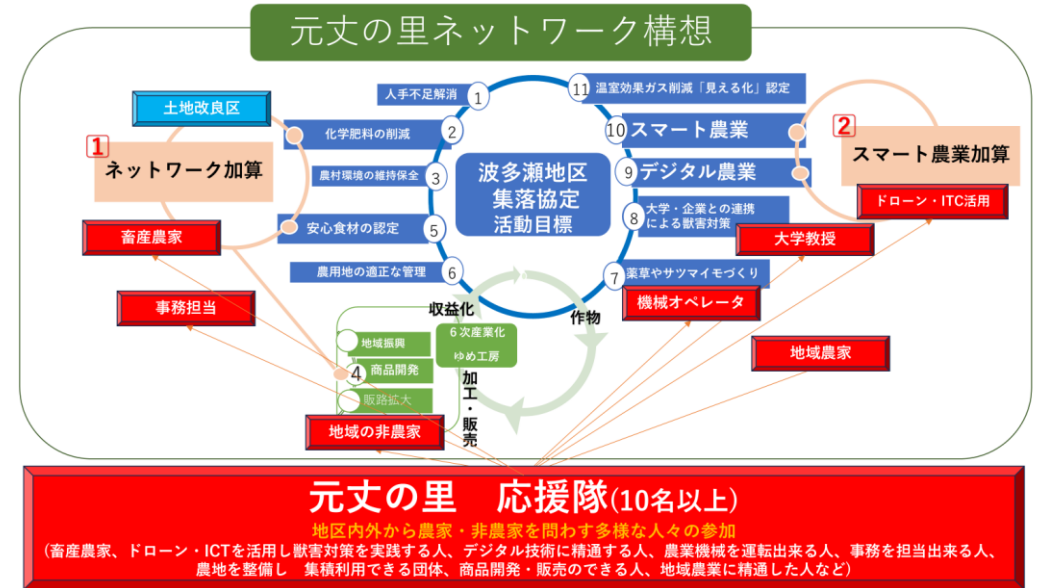
面積：16.1ha(田)
(急傾斜16.1ha)
交付金額：494万円
(うちネットワーク加算76万円、スマート農業加算80万円)
構成員：5組織(営農組合1 担い手農家3 波多瀬1)
連携組織：元丈の里応援隊、土地改良区
協定開始：令和4年度

(参考資料)

① 位置図



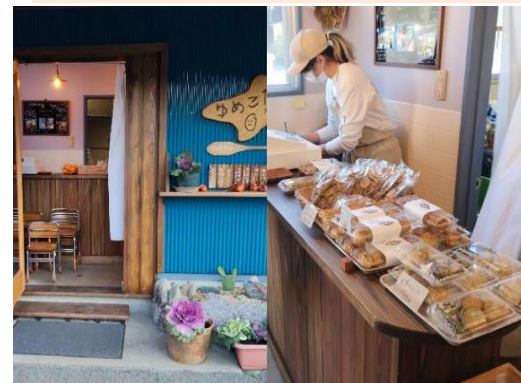
② 体制図



当集落協定は、11の目標を定め、日々活動している。

- ①人手不足解消 ②化学肥料の削減 ③農村環境の維持改善 ④商品開発 ⑤安心食材の認定
⑥農用地の適正な管理 ⑦薬草やさつま芋づくり ⑧大学・企業との連携による獣害対策
⑨デジタル農業の推進 ⑩スマート農業の推進 ⑪温室効果ガス削減「見える化」認定

③ 取組の様子



取組概要	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
	○				

サルなどの獣害に対し複数集落で連携して防止・対策する活動体制の構築

- サル群など獣の集落への出没や移動・被害状況をLINEで情報発信・共有して即時に追払いすることで被害減少
- 2集落が連携する獣害対策組織を結成し情報交換・共同活動することで知見の共有・効果的対策、多数集落連携で効果増大

集落の課題

サル等被害の増加地域

- ・サル群(和知C群)が度々出没、個人や集落単位では防衛できない。



取組内容

集落でサル追払組織を結成、2集落で連携、多数集落へ拡大中

- ・グループLINEを利用して、集落内及び周辺のサル等有害鳥獣の出没情報を共有、注意喚起、追払行動、実行情報の伝達。
- ・集落を越えてお互いに巡回し情報発信、出没時の初期対応と連携しての広範囲の追払により被害の軽減。
- ・役員会等の人的交流により、情報交換、対策の知見共有、現地調査による効果的な対策の検討と実施。
- ・被害の発生している周辺集落へ、取組説明を行い、更なる連携(ネットワーク化)を行い周辺地域からサル等獣害被害を減少させる。

○サル等追払フロー

- ・サル等追払組織と住民が一体となり作物などを守る活動をしている。



- ・発見者がLINEで写真、動画等発信(場所、C群orハグレ、被害状況等)【追払隊員が集落内外を巡回。サルに装着の発信機からの電波受信機も利用】

- ・その場での追払い(煙火[動物駆逐用]、BB弾銃、大声を出す、投石、笛、犬威嚇等)
- ・LINEを見て出没付近住民が追払行動に加勢。移動方向の住民が被害予防行動
- ・追払協力者が集団で追払い行動 複数集落が連携して共同追出し行動

- ・多人数でサルに対抗することで、サルに恐怖感を与える
- ・サルにこの地域は危険と学習させ、入り込まない意識付け

取組の成果又は目標

「和知サル追払プロジェクトチーム」の設立

- ・令和3年「升谷サル追払隊」を結成以降サル群出没頻度は減少傾向にあったが、隣接集落に移動後、出没を繰り返していた。
- ・令和4年に、隣接する市場集落の「市場エンブプロジェクトチーム」と出没・移動の情報交換を開始。
- ・人口減少に伴い追払活動の従事者が減る中、第6期中山間の取組(ネットワーク化)を機に連携チームを結成し、相互協力による活動を一層充実させ相乗効果を狙う。

サル群出没減少・参加チーム拡大

- ・サルは由良川に架かる橋梁や和知ダムを容易に移動する為、より広範囲な集落連携の組織化を図り、地域一体となった獣害対策を目指す。
- ・サル群の升谷集落への出没は、令和3年34回、令和6年12回に減少しており、近隣集落への効果拡大が期待できる。

取組地域の概要

○位置



○地域の概要

- ・京丹波町北部に位置し、由良川が集落を流れ河岸段丘に農地があり住家が点在し背後には山地が迫る農山村地域

○主要作物

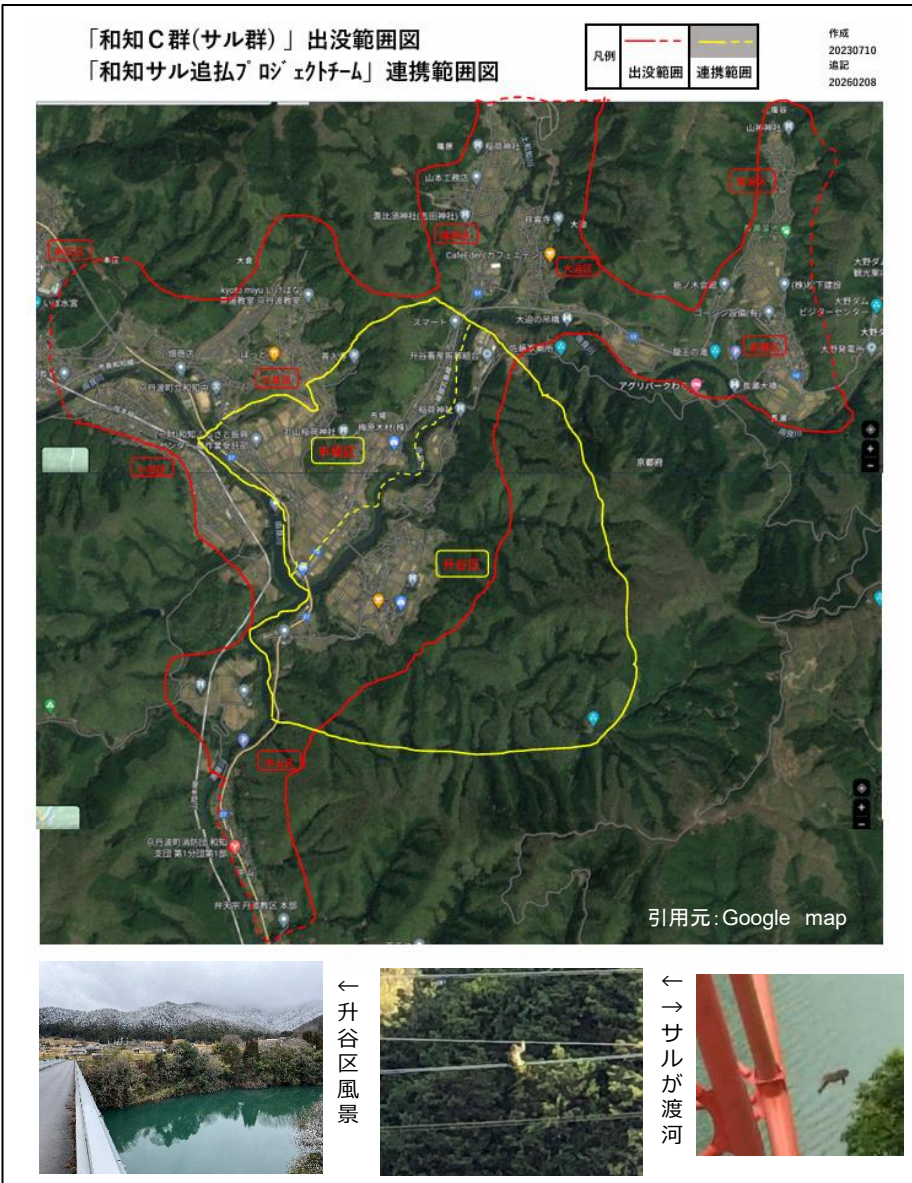
- ・水稻、加工用米、丹波黒大豆

○集落協定の概要(令和7年現在)

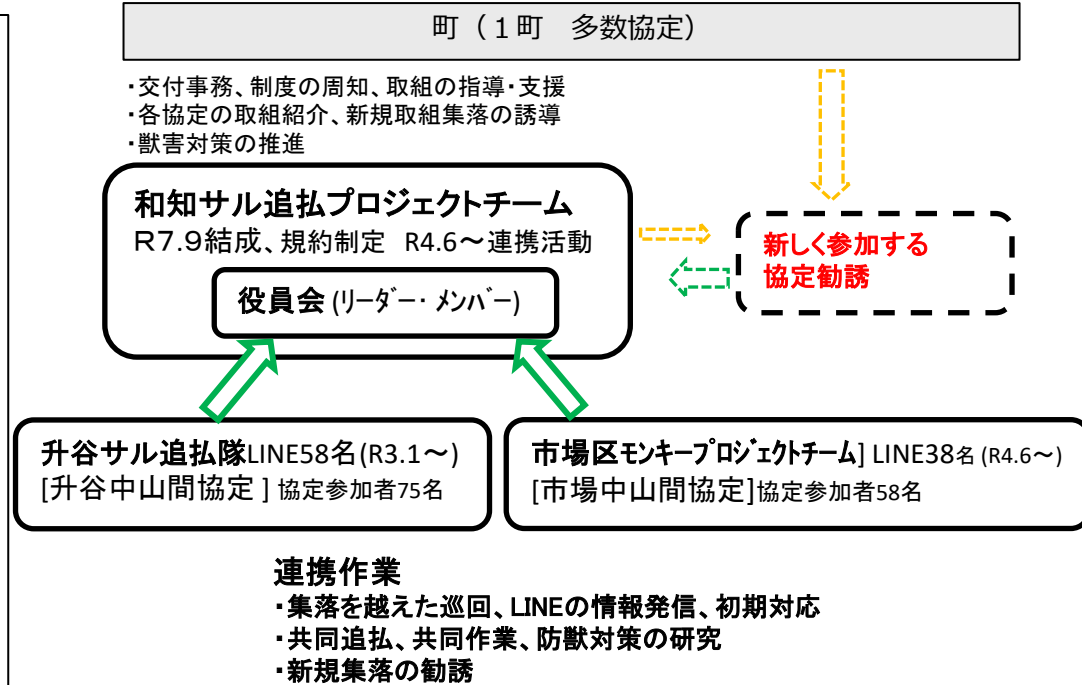
- 面積：33ha(田)
- (急傾斜26.2ha、緩傾斜6.8ha)
- 交付金額：863万円
- (うち、ネットワーク化加算93万円、スマート農業加算165万円)
- 構成員：農業者71人、自治会等5団体
- 連携組織：市場中山間集落協定
- 協定開始：平成12年度

(参考資料)

① 位置図



② 体制図



③ 取組の様子



【和知サル追払役員会】



【サル追払、防獣現地調査】